

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		藤井 智史		所 属		工学部 電気電子工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.35	学部担当科目についてはJABEEの基準を満たす講義を行う。大学院担当科目は、輪講形式で実施し学生の自主的学習を促すようにする。 1年次担当教員として、担当学生に履修指導・進路指導を行なう				0.30	学部担当科目(電磁気学Ⅱ、電気電子計測工学Ⅰ、通信工学Ⅰ)についてJABEE基準を満たす講義を行った。大学院担当科目(信号処理システム特論)は輪講形式にて実施するとともに毎週課題を出して自主学習を促した。1年次担当教員として20名の学生を担当し履修指導を行った。				
研究	0.50	獲得している科研費2件を活用して研究を進め、今年度中ならびに次年度以降の外部資金獲得に向けて成果発出する。				0.45	科研費1件の研究分担者に加え、受託研究1件、共同研究2件を受けて、近距離レーダの開発、遠距離レーダの方位分解能向上、宮崎での実地観測、津波観測の研究を進め、研究成果として論文2件、国際会議5件(うち招待講演1)、国内口頭発表17件を発出した。九州大学応用力学研究所研究集会の代表者として研究集会を主催した。 次年度外部資金公募に対して、科研費基盤B2件、SCOPE1件申請中。				
社会貢献	0.05	大学評価に関する委員の職務を遂行する。				0.10	大学評価・学位授与機構の専門評価員として、大学評価を行い結果が公表された。 国際会議2件をローカルアレンジとして開催した。来年度開催の国際会議1件の準備を行った。				
管理運営	0.05	学科内および学部内、全学委員会の委員としての職務遂行する。				0.10	学科教育委員会委員長、学部教育委員会委員、全学学士教育プログラム委員として、教育関係のとりまとめ等職務を遂行した。 学部改組WG委員として改組に関する議論、取りまとめを行った。				
進路指導	0.05	研究室4年次学生に対して、進路相談、推薦状作成等に対応し、大学院入試指導、大学院につながる研究指導を行う。大学院博士前期課程学生に対して、進路についての相談にのり就職活動等のサポートを行う。				0.05	研究室4年次学生就職希望者ならびに大学院前期課程2年次学生の就職相談に対応し推薦書作成など支援した。大学院進学希望者には、研究指導に加えて学習指導を行い3名が他大学大学院に合格することができた。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		長田康敬	所 属		工学部 電気電子工学科
			職 名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	<p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、この分野の新しい技術を紹介していくことに努める。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版できるよう引き続き準備を進める。「情報数学入門」は共著で出版の準備中である。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成したので、さらに加筆して、講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術の習得を目指す。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆し、これに基づいて実践的な指導を行なう事を計画している。場合によっては、学科や研究科の枠を超えて改善に取り組む。</p>		0.25	<p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、毎週、課題を課して採点を行った。この分野の新しい技術と歴史を紹介することができた。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆を継続している。「情報数学入門」は森北出版と2回打ち合わせを行った。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成し、加筆・訂正を行った。講義の最初の所でこの資料を用い、耐故障システムの基本的な技術の講義を行った。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆する予定であったが、まだ実現できていない。次年度に執筆する。学科や研究科の枠を超えて指導を行った。</p>
研究	0.25	<p>(1) 複数の科研費のプロジェクトに参加し、推進していく計画である。プロジェクトは他学科および沖繩高専との共同研究となる。今年は独自の科研費の申請を行う予定である。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金を確保できるよう各種助成金に応募する予定である。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を行なっていく。特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価する。本年度は国際学会での発表と院生の論文投稿に力を入れていく計画である。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なう計画である。</p>		0.25	<p>(1) 複数の科研費のプロジェクトに参加し、研究を行った。共同で論文投稿や研究発表をした。プロジェクトは他学科および沖繩高専との共同研究であった。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金を確保できるよう各種助成金に応募する予定であったができなかった。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を引き続き行なっている。特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価を行っている。特許申請ができそうなシステムを創出できそうである。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿の最終段階に進めている。</p>
社会貢献	0.15	<p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し、地元のニーズに応える。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し、地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である。</p> <p>(3) 揚水システムの開発を開始する予定である。</p>		0.15	<p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発を行なった。これはイオン関連商品である。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し、新規にiEMSと名打って開発に着手した。</p> <p>(3) 揚水システムの開発は中断した。</p>
管理運営	0.20	<p>(1) 工学部の施設・環境委員会委員として関連事項の役割を果たしていく予定である。</p> <p>(2) 学科の大学院博士前期課程入試委員として、役割を果たしていく予定である。</p>		0.20	<p>(1) 工学部の施設・環境委員会委員として会議に出席し、学科会議との橋渡しをしながら、工学部全体の環境問題や施設管理の仕事をを行った。</p> <p>(2) 学科の大学院博士前期課程入試委員として入学試験を行い、十分な院生の確保をした。</p>
進路指導	0.15	<p>(1) 卒研生の進路指導を徹底し、それぞれの希望ができるだけ叶うよう指導をしていく。そのため、就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なっていく。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供できるようにする。</p>		0.15	<p>(1) 卒研生の進路指導を徹底し、それぞれの希望ができるだけ叶うよう指導をした。就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なった。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供したが、まだ決定していない。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) このシートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		半場 滋	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.45	(1)電気数学IV(昼間主コース)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(2)非線形制御特論(大学院)の講義資料を改訂し、講義内容の充実をはかる。(3)エンジニアリングデザイン講義(昼・夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(4)数値解析(昼間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(5)卒研究生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなう。		0.45	(1)電気数学IVの講義資料を改訂し、講義をおこなった。受講者85名に対し不可は9名で、単位修得率89.4%であった。(2)非線形制御特論において、特別プログラムの受講生に配慮し、講義資料を英語に変更した(A4, 文字サイズ8ポイント, 61ページ)。受講者は14名で全員単位を修得し、単位修得率は100%であった。(3)エンジニアリングデザイン講義資料を改訂し、講義をおこなった。当該学生実験(3年次後楽器)の全テーマを通しての集計になるが、受講者数78名に対し不可は4名で、単位修得率は94.9%であった。(4)数値解析(選択)の講義資料を新規に作成し、それに基づいて講義をおこなった。受講生76名に対し不可は6名で、単位修得率は92.1%であった。(5)卒業研究および大学院生の研究では、学生の自主学習を重視し、学生に自分で論文検索をした上で研究テーマを決めさせる指導をおこなった。また、適切に進路指導をおこなった。進路指導の結果は、卒研究生4名のうち2名が進学、2名が就職となった(進路決定率は100%, 進学率50%)。	
研究	0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、年度内に1本以上論文を投稿する。(2)新プロジェクトの準備を進め、科研費に基盤研究Cあるいは萌芽研究として応募する。(3)査読者として、投稿論文の適切な査読をおこなう。		0.30	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、論文を3本投稿した。そのうち1本は採択され、電子版が出版された(Published online : 19 AUG 2015, DOI: 10.1002/acs.2601)。残り2本は査読中である。(2)科研費の萌芽研究に応募した。(3)学術論文9本の査読をおこなった(再査読を含む)。内訳はAutomatica 5本, Asian Journal of Control 3本, Kybernetika 1本である。	
社会 貢献	0.05	(1)講義資料や出版済み論文などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する実験動画を公開する。		0.05	(1)新規に作成した数値解析の講義資料をWebページで公開した。過去100日間に当該アドレスにアクセスがあったIPアドレスの数は559である。(2)昨年度の卒業論文および修士論文の題目をWebページで公開した。 ●筆者が講義資料等を公開しているWebページへのアクセスは、開設年度の2002年度にはIPアドレスで見て1日平均8.8件と少なかったが、2006年度以降は1日あたり平均500件以上で推移している。2016年2月22日時点で2015年度の1日あたり平均アクセス件数は843.8件である。	
管理 運営	0.10	(1)実験検討委員長として、実験に係る予算や担当者等の調整、実験内容の改善などの業務に取り組む。(2)計算機システム管理運営委員長として学科ネットワークの管理運営作業をおこなう。(3)その他各種委員会の業務に取り組む。		0.20	(1)実験検討委員会委員長として、年度を通して5回の実験検討委員会を開催し、学生実験の運営業務を適切におこなった。(2)計算機システム管理運営委員会委員長として、学科ネットワークの管理を適切におこない、大学本部の要求するセキュリティに関する調査に適切に対応した。(3)学部教育委員会委員として、現況調査票の作成業務や教員養成課程に係る申請書類の取り纏めなどをおこなった。また、学科教育委員会委員としての業務をおこなった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長堂 勤	所 属	工学部電気電子工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(制御工学I・II、情報数学、卒業研究、セミナー)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。授業アンケートの結果に対応する。		0.40	学部担当科目については、ほぼJABEEの基準を満たす講義が行えたものとする。	
研究	0.45	研究論文の採択を目指す。国内外で研究発表を行う。今年度の目標として、査読付き論文1編以上、国際・国内学会発表2件以上とする。		0.45	今年度の研究業績として、レフリー付き学術論文(1件:共著)、国際学会論文(1件:単著, 2件:共著)であり、ほぼ設定目標通りであると言える。	
社会貢献	0.10	沖縄職業能力開発大学校の非常勤講師を担当し、職業訓練を担うことで地元へ貢献する。またオープンキャンパスに積極的に取り組む。		0.10	前学期において沖縄職業能力開発大学校で講義(制御工学)を実施し、地域貢献を行った。またオープンキャンパスに参加し、地元高校生へ電気電子工学の有用性・重要性を説明した。	
管理運営	0.05	学科入試委員会、学部研究推進委員会などの委員会活動に積極的に参加する。		0.05	学科入試委員会および大学院入試事務を担当し、各種入学試験の準備作業および実施を行った。また学部研究推進委員を担当し、議事報告や調査等の作業を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長名 保範	所 属	工学部電気電子工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	昨年度は大学院講義の内容を全体的に見直して大きく手直したので、今年度はさらによいものにする。学部生の学生実験も、昨年度導入した機材などを活かして、学生の理解度を高めるような工夫を行いたいと考えている。本年度は一年次の指導教員であるので、初年次の指導に力を入れていきたい。また、研究室でも修士課程を卒業する学生がいるので、研究室の学生の進路指導も行う。		0.40	学生実験や大学院講義の内容を昨年に引き続いて改善し、学生の理解力向上につなげることができたと考えている。また、初年次の指導、研究室の学部卒業生・大学院卒業生の進路指導や研究指導などもそれぞれ順調であった。今後活かしていきたい。	
研究	0.40	現在獲得している流体計算アクセラレータに関する科研費が今年度で終了するため、しっかりと成果をまとめて公表できるようにしていきたい。また、来年度以降も引き続き科研費を獲得できるように申請を行う予定。		0.40	研究は概ね予定通りに進捗し、発表等も行った。来年度へ向けての新たな共同研究の体制づくりなども行ったので、来年度以降さらに発展させていきたい。	
社会貢献	0.10	電子情報通信学会の英文論文誌編集委員・研究専門委員などの活動を継続する。また、6月開催の国際会議HEART2015その他の委員としてそれぞれの会議の開催に関わる業務を行う。		0.10	左記のような各種の学会活動を行い、それぞれ充実したものとなった。引き続き国際会議等の委員を担当するので努力していきたい。	
管理運営	0.10	学部・学科の各委員会の活動を通じて大学の管理運営業務を行う。		0.10	学部・学科の各種委員会業務を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口 隆	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	学部、院担当科目で、しっかり理解させ、興味をしめすよう努めて講義する。(地域)ビジネス化を意識した講義、外国語(URSEP)の講義も行う。必要に応じ Gp. 討議を入れる。ゼミでの英語発表を行う。科学者の倫理(本円より必須化)に貢献。修士、博士学位論文の指導に努める。		0.20	ULSEPに英語での講義で貢献。地域ビジネス化を意識した講義では、美ら島サポートプロジェクトで学内のサポートを受け、大学院、学部の専門科目の講義で外部の講師によるセミナーを設定し、効果的な講義ができた。ゼミの研究では、英語の修士論文、英語のコミュニケーションの指導を行った、修士、博士の指導は、しっかり行い。大学院、科学者の倫理の講義を積極的に担当した。	
研究	0.30	地域特性を生かした省資源でクリーンな半導体の研究を(太陽電池、光センサなど)を推進。国際会議発表(5件以上)、正規論文2件以上。産学、学学、海外共同研を推進。(部局間交流) 外部資金(研究費)の獲得。(2つ以上の企業 工学部の研究推進にも貢献する。		0.30	今年度は、学生を鼓舞し、研究対象の薄膜素子特性もかなり向上できた。国際会議10件、正規論文5件が達成できた。2社の企業からの研究費、1社から寄付金のサポートが受けられ、産学共同研究は効果的にできた。特許1件出願。新聞掲載1件。	
社会 貢献	0.25	国際会議(AMFPD、IDW、IMID、AWAD)の委員、応用物理学会委員。論文委員、査読(IEICE他)などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。(韓国他) 教員免許審査、講義で貢献する。工学部運営を通して貢献。大学代表として新技術報告会に参加予定。		0.25	国際会議では、IMIDで副プログラム委員、他AMFPD、AWAD、IDW、ITCのプログラム委員として貢献。交流では、締結校(韓国、湖西大学)と第12回の交流会を開催し、新しく仏のレンヌ大学、電子関連研究所と交流が締結できた。JST新技術報告会に参加できた。	
管理 運営	0.25	工学部副学部長として運営に貢献予定。特に、海外研究交流、研究推進で貢献する。(海外交流委員、日韓交流など)。上記と関連するが、国際会議の委員、論文委員、査読などに貢献する。部局間交流締結、国際的な研究、教育交流に貢献する。(韓国他)		0.25	海外交流担当として、交流促進を指導し、運営に貢献した。学内公募に申請し、工学部として獲得した。岸本奨学金の学生派遣を学務と協力してサポートした。東京外大で開催された、国費留学生への大会に参加し、本学をアピールした。また韓、仏への留学希望の学生に対し、その国の言語で面接し、貢献した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山里 将朗	所 属		工学部電気電子工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	学部担当科目(電子物性工学 I, 量子力学 I, 電子デバイス工学 I)を担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。大学院では, 電子物性工学特論を担当し, 英文テキストを用いて, 輪講形式で行う事で, 学生の英語能力並びに自主学習能力促進をはかる。また, 研究室配属学生に対して就職, 進学指導を行う。			0.20	学部講義において担当科目の講義を行った。講義資料を作成, 配付し, 学生の理解を深めるように努めた。また, 大学院では英語テキストによる講義を行ない, 研究室学生の進路指導を行った。		
研究	0.30	大学院修士課程の学生と共に研究発表及び国際会議や原著論文を1件以上採択を目指す。関連企業との共同研究を継続し, 実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.20	学会発表4件行ったが, 論文投稿が間に合わなかった。今年度末及び次年度に向けて努力する。		
社会 貢献	0.10	高校訪問, オープンキャンパス等を通して, 電気電子工学の社会における役割を紹介する。			0.10	オープンキャンパス等に参加し, 高校生へ学科紹介を行った。		
管理 運営	0.35	学科長として, 適切な学科運営を行う。また, 電子物性関係科目検討委員, 将来計画委員, 予算配分委員として, 学科及び学部運営に関わる。			0.50	学科長として学科運営を行い, また, 各委員活動を行った。また, 改組WG委員として学部の改組案作成を行った。		
					0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 光永	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 量子力学II, 電気電子工学概論I, および同II, 夜間主コースにおける電子回路IIを担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。また, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を日本語及び英語にて行う。さらに学部夜間主コース1年次の指導教員として, オリエンテーション, 年次別懇談会, オフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および履修指導を行う。また, 研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行う。			0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 量子力学II, および電気電子工学概論I, および同II, 夜間主コースにおける電子回路IIを担当し, JABEEの基準を満たす講義を行った。また, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 最新のトピックをもとに日本語及び英語で教育指導を行った。さらに, 学部夜間主コース1年次の指導教員として, オリエンテーション, 年次別懇談会, オフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および履修指導を行った。また, 研究室配属の学部生および大学院生に対し論文作成指導ならびに進路・就職情報提供などの進路指導を行った。		
研究	0.40	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発に努める。その成果をもとに国内外学会発表および学術論文など2件以上の投稿を目指す。			0.25	量子計算機の実現に向けた基礎的研究開発の成果を国際講演会において1件, 国内講演会において2件, 研究会において1件発表した。また, 研究論文1件執筆中である。		
社会 貢献	0.15	公開講座として, 小学生に対し電気電子工学分野への興味を持ってもらうため, 簡単な電子工作教室を企画運営する。			0.15	公開講座として, 琉球大学RCC事業に協力し, 那覇キャンパス(那覇市牧志駅前ほしぞら公民館)にて小学生向けの電気電子工作教室を企画運営した。		
管理 運営	0.15	学科内委員会委員としての活動に積極的に参加する。			0.30	学科内3委員会の委員として委員会活動に積極的に参加した。また, 1年次指導教員として共同してオリエンテーションでのロボットコンテストの企画運営を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		景山 弘	所 属		工学部 電気電子工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当する予定である。昨年度と同様に、毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。また、小テストを行った直後に模範解答を示し、学生がその場で自己評価できるように配慮する。		0.35	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、および、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当した。毎回の講義において、前回の内容に関する小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮した。また、小テスト・演習を行った直後に模範解答を示し、学生がその場で自己評価できるように配慮した。さらに、小テスト・演習において、問題数を、昨年度よりも約2倍に増やし、より多くの問題を解かせるように努力した。
研究	0.35	有機薄膜太陽電池ならびに有機薄膜トランジスタの高性能化に関する研究を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。なお、少なくとも、1件以上の論文投稿あるいは学会発表を行うことを目標とする。		0.35	有機薄膜太陽電池については、アモルファス膜を加熱して得られる過冷却液体あるいは融液の流動性を利用することによる、相互貫入構造の新しい作製手法を開発するとともに、この手法を用いて作製した素子の性能が、未加熱の素子に比べて向上することを明らかにした。また、有機薄膜トランジスタについても、同様に、アモルファス膜の加熱により得られる過冷却液体あるいは融液の流動性を利用して、「有機薄膜を、必要な場所に、必要な量だけ配置する」技術を開発するとともに、得られた膜を用いて、有機薄膜トランジスタを試作した。研究成果を、応用物理学会九州支部大会および応用物理学会春季学術講演会(予定)にて発表した。
社会 貢献	0.15	琉球大にて開催される、応用物理学会九州支部大会の現地実行委員を担当し、学術交流の活性化に貢献する。		0.15	琉球大にて開催された、応用物理学会九州支部大会の現地実行委員を担当し、学術交流の活性化に貢献した。
管理 運営	0.15	数学関係科目検討委員、電磁気学関係科目検討委員、電子物性関係科目検討委員、教育委員、広報委員を担当し、学科の管理運営にあたる。		0.15	数学関係科目検討委員、電磁気学関係科目検討委員、電子物性関係科目検討委員、教育委員、広報委員を担当し、学科の管理運営にあたった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		曾根川 富博	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	前期の4年電子システム工学実験, 3年電気電子システム工学実験I, 後期の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深めPCを利用した報告書作成方法の理解がえられるよう指導を行う。年次指導教員を担当している組については、学生の修学状況の把握をしっかり行い、除籍者がいないよう指導する。研究室配属学生について、進路に関する指導を密に行う。			0.40	各実験については、PCを用いた波形取り込み・波形および図の描き方等の指導を一人ひとり行うことができた。年次指導の学生については、2ないし3名ほど、呼び出しを行ったものの出席状況が改善できない学生が出てしまった。卒業研究の学生については1名が実験を終了できず、もう1名については積極的に就職活動を行うように指導したが、現在も活動を行っている。		
研究	0.35	昨年度卒業研究で指導した、低誘電率材料の作製について、応用物理学会での発表を行うと共に、論文としてまとめ、投稿を行う。			0.35	論文を執筆するに十分なデータは得られなかったものの、秋季の応用物理学会において多孔質シリコンの多孔度と低誘電率材料の誘電率との関係について発表を行った。		
社会 貢献	0.05	工学部講演会総会等、講演会主催行事に積極的に参加し貢献する			0.05	工学部講演会総会および懇親会に参加し、講演会主催の就職説明会に研究室の学生の参加を積極的に勧めた。		
管理 運営	0.20	工学部の選挙管理委員会、学科のJABEE、実験検討、安全の各委員会に積極的に参加する。			0.20	工学部選挙管理委員会では委員長を務め、無事に評議員選挙をはじめとする人事に関する選挙を行った。学科の各委員会においても無事に作業を行えた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡田 竜弥	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	学生実験において、単なる手順の遂行でなくその場で考えながら進められるよう工夫するとともに、実験手順、考察をきちんとレポートにまとめられるよう指導する。また、2年次指導教員として、年次別懇談会や履修指導などを通じて、将来の進路について考え2年次のうちにできることを考え実践するよう指導する。			0.40	学生実験においては、実験結果から読み取れることやその原因・考察について簡潔に説明するよう学生に促すことで、実験課題ごとにその場で考えながら実験を進められるよう、工夫して指導した。また基礎実験では提出されたレポートを添削して返却し、書き方やまとめ方について指導を行った。2年次指導教員として、年次別懇談会で進路について考えておくよう促すとともに、3年次後期の研究室仮配属に向けて特に重要な科目について注意を行なった。		
研究	0.35	学会で研究成果を発表するとともに、2本以上を目標に論文にまとめ投稿する。また科研費やJSTなどの外部資金獲得に向けて、積極的に応募する。			0.35	共著で3件の論文掲載が決定した。また、主査を務める指導学生と研究を推進し、1件の国際会議、1件の国内会議、3件の研究会で発表を行ない、1件の国内学会の発表が決定している。外部資金獲得に向けて、科研費のほか沖縄県の公募に応募した。		
社会貢献	0.10	他の業務に支障のない範囲で、研究会への参画など積極的に行なう。			0.05	研究会での発表を通じ、研究成果を発信した。		
管理運営	0.20	2年次指導教員の連絡係として、また学科の教育委員会など各委員会の委員として責任をもって業務をこなす。			0.20	2年次指導教員の連絡係として年次別懇談会等を調整・開催し、また教育委員会、学部入試委員会、大学院入試委員会等の委員として分担された業務を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		米須章	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳを担当し、社会の要求を満たす水準の講義を行う。また、毎回、学生への質問や小テストなどを行うことにより、学生が積極的に講義に取り組めるよう工夫する。研究室に配属された学生に対して就職指導および進学指導を行い、全員が希望の進路へ進めるよう支援・指導を行う。		0.40	予定通り、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳを担当した。各講義では、毎回、小テストや講義中の学生への質問等を行い、学生が講義に積極的に取り組めるように工夫した。これらの結果、学生によるアンケートでも評価は高かった。また、研究室に配属された卒研究生5人、大学院生1名に対し、進路について指導を行った。結果、それぞれ就職・進学が決定した(就職4人、進学2人)。以上より、目標を達成することができた。	
研究	0.25	プラズマ滅菌に関する研究を進め、成果を学術論文、国際会議などに2件以上投稿する。また、企業と共同研究を行い、外部資金の獲得を目指す。		0.25	2件の国際学会(海外1、国内1)に参加し、プラズマ滅菌について発表を行った。その他、院生が国内での学会発表を1件行った。サラヤ株式会社との共同研究を行い、外部資金を獲得した。また、その共同研究での成果を論文にまとめ投稿し、採択された。更に科研費の分担者として九州大学と共同で研究を進めた。以上より、目標を達成することが出来た。	
社会 貢献	0.15	企業との共同研究を進め、プラズマ滅菌装置の実用化を目指す。		0.15	サラヤ株式会社と共同研究を行い、プラズマ滅菌装置の開発をすすめた。以上より目標を達成することができた。	
管理 運営	0.20	学部入学者選抜委員会委員長、電気数学科目検討委員会委員長、電磁気学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、入学者選抜方法等検討委員会委員、工学部入試検討委員として積極的に活動する。		0.20	予定通り、学部入学者選抜委員会委員長、電気数学科目検討委員会委員長、電磁気学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、入学者選抜方法等検討委員会委員、工学部入試検討委員として積極的に活動した。さらに、大学案内WG委員長、入試問題全学点検委員として活動した。以上より、目標を達成することができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金子 英治.	所 属		工学部 電気電子工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	<p>学部においては電力工学Ⅰの昼間主, 夜間主の講義を担当する。学生の理解度向上の施策を執り行い不可率の半減を目指す。大学院においては電力工学特論において英語で講義提供を試行する。研究室配属学生の就職希望者の早期内定100%を目指して支援する。大学院学生の国際会議出席, 共同研究先へ出向いてのプレゼン等の密度の高い研究成果発表の機会を与えること100%を目指して支援する。</p>		0.30	<p>前学期においては電力工学Ⅰの昼夜の講義を担当, 後学期においては電力工学Ⅱ, 応用力学, 回路理論Ⅲを担当した。毎回の小テスト, 宿題をすべての科目で行い, 出席率向上につなげることができた。ほとんどの科目において不可率は昨年度を下回った。大学院での英語の講義については学生の評価が高かった。就職は100%が早い段階で達成できた。研究室全員に学外発表の機会を与えることができた。大学院学生には全員海外発表を行わせた。</p>
研究	0.30	<p>企業との共同研究について, 2件継続, 1件新規の契約を実現する。研究成果の発表の場として二つ以上の国際会議への論文発表を行う。また, 国際会議, 国内学会, 研究会等での論文発表10件以上を目指す。さらに, ジャーナルへの投稿3件以上を目指す。</p>		0.30	<p>企業との共同研究の2件継続に成功した。3件目は4月からの契約となり, 新規の契約に成功した。パワーアカデミーの特別推進研究の採択に成功した。国際会議については4つの国際会議に論文発表することができた。研究会等は10件以上発表した。ジャーナルへ投稿3件実現し, 2件掲載済, 1件最終査読中。</p>
社会 貢献	0.20	<p>日本電気規格役員会・理事会に参画し, 規格改定について貢献する。電気学会技術委員会, 調査専門委員会に参加し, 電気学会活動に貢献する。電気学会国際活動の一環であるICEE2016の現地実行委員長として会議の運営に貢献する。放電学会会長として放電技術の深耕, 学会活動の充実に貢献する。ISDEIV, ICEPE-STなどの国際学術会議の国際運営委員会に参画し国際会議の発展のために貢献する。</p>		0.20	<p>日本電気規格役員会・理事会に参画し, 規格改定について貢献することができた。電気学会技術委員会, 調査専門委員会に参加し, 電気学会活動に貢献した。調査専門委員会は新設の委員会に招かれ参加を始めた。電気学会国際活動の一環であるICEE2016の現地実行委員長として会議の運営を行っている。論文投稿申し込みが500件を超え順調に準備が進んでいる。放電学会会長として放電技術の深耕, 学会活動の充実に貢献した。シンポジウム, 年次大会を盛會理に行うことができ, 次期会長選挙を無事済ますことができた。</p>
管理 運営	0.20	<p>学生指導主任として全学の学生の指導, 教育に携わる。琉球大学保有個人情報管理委員会, 琉球大学情報公開委員会に参画し全学委員会活動に携わる。大学院入学者選考委員会, 回路理論関係科目検討委員会の両委員会委員長として学科活動に携わる。</p>		0.20	<p>学生指導主任として学内委員会に参加し全学の学生の指導, 教育に携わった。琉球大学保有個人情報管理委員会, 琉球大学情報公開委員会に参画し全学委員会活動に貢献した。大学院入学者選考委員会委員長として入試事務を無事終了した。回路理論関係科目検討委員会の両委員会委員長として科目の課題を整理し学科活動に貢献した。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		千住 智信	所 属		工学部 電気電子工学科
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	<p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学(昼間主ならびに夜間主)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生3名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生5名)を行う。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程3名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行う。また、研究室所属学生の進学に関してTOEFLの受験指導を行うと共に、進学に必要な受験勉強の指導を行う。</p>		0.20	<p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学(昼間主ならびに夜間主)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助けた。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生3名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生5名)を行った。国費留学生の博士の学位取得を指導し、学位を取得させた。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程3名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行った。学部学生は全員博士前期課程に進学し、博士前期課程の学生は全て希望会社へ就職させた。外国人留学生で今回博士後期課程を修了する学生も日本国内の日本企業へ就職させた。</p>
研究	0.25	<p>研究論文3編以上の採択を目指す。科学研究費補助金の採択を目指す。外部資金獲得のために、各種財団へ研究助成金の申請を行う。さらに、企業との共同(受託)研究を実施する。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。</p>		0.15	<p>研究論文5編を学術雑誌へ掲載した。国内外の国際会議で10件の研究成果を発表した。科学研究費補助金が採択された。外部資金獲得のために、企業との共同(受託)研究を実施した。今年度は2企業と共同研究を実施できた。オーストラリアのRMIT大学、エジプトのアスワン大学との共同研究を推進し、研究成果を発表した。また、学術交流を進めている。</p>
社会 貢献	0.20	<p>電気学会九州支部沖縄支所委員を務める。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について提言する。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境に関する提言を行う。国際会議の運営等に関してIEEE IECON 2015のTrack Chairを担当する。別の国際会議であるICEMS2016の組織委員会委員を務める。また、電気学会、IEEE等の論文査読を行う。</p>		0.20	<p>電気学会九州支部沖縄支所委員を務めた。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について委員会を開催した。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境に関する提言を行った。国際会議の運営等に関してIEEE IECON 2015のTrack Chairを担当した。別の国際会議であるICEMS2016の組織委員会委員を務めた。また、電気学会、IEEEの論文査読を行った。国際学術雑誌のSustainability of the Section Boardを務めた。「2015九州PCカンファレンスinおきなわ」の実行委員長を務めた。沖縄県主催の「沖縄ハワイエネルギーイノベーションフォーラム」のパネルディスカッションにおいてモデレータを務めた。</p>
管理 運営	0.30	<p>下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。特に学科内では電磁エネルギー関係科目検討委員会委員を務める。工学部では、研究委員会委員、副学部長、教育委員会委員長を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事する。また、工学部を代表して評議員として全学研究教育評議会へ参加する。</p> <p>学科:電磁エネルギー工学講座関連科目検討委員 工学部:教育委員会、研究推進委員会委員、副学部長 全学:総合情報処理センター長、評議員</p>		0.45	<p>学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与した。特に学科内では電磁エネルギー関係科目検討委員会委員を務めた。工学部では、研究委員会委員、副学部長、教育委員会委員長を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事した。また、工学部を代表して評議員として全学研究教育評議会へ参加した。工学部教育委員会においては、第二期中期目標期間内の教育の現況表作成に力を注いだ。</p> <p>特に今年度は工学部改組の作業を工学部改組WGで準備したが、WG委員長として資料の作成ならびに文部科学省と改組案の内容について協議を行った。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前		山本健一	所属	工学部 電気電子工学科	職名	准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	学部講義として電気電子材料(2単位)ならびに回路理論IV(昼夜、計4単位)を担当する。シラバスに則った内容を提供するとともに、科目ホームページを開設し教材ならびにQ&Aを受講生に公開し学習をサポートする。大学院講義2単位を担当し、英語で講義・議論する。卒業研究・セミナーの配属学生について安全教育をはじめ卒業研究ならびに進路指導を行う。4年次指導教員として夜間主を担当し、年次の就学指導を担う。		0.30	電気電子材料(2単位)、回路理論IV(4単位分)をシラバスに則して実施できた。科目ホームページを開設し講義資料とQ&Aを用いて学生の学習をサポートした。回路IVについては近年の実施状況についてデータを取りまとめ学会発表した。大学院講義2単位を英語で講義・議論できた。卒研・セミナーでは3名の配属者に対して研究指導するとともに、進学指導ならびに就活指導の結果、進学者2名、就職者1名となった。4年次指導教員は担当の夜間主学生の指導ならびにとりまとめ係のサポートを行い、円滑な運営に尽力した。	
研究	0.30	面圧縮力の効果が電磁鋼板の磁気損失に及ぼす効果について、測定を継続し磁化過程に関する研究を推進する。科研費を申請予定。		0.30	電磁鋼板の面圧縮力効果について測定と解析を行い、研究会等で成果を発表した。科研費に申請できた。当初の予定外ではあるが、研究助成金の取得に成功できた。	
社会貢献	0.10	電気学会電力用磁性材料の高度活用技術委員、日本磁気学会編集委員としての活動を行う。		0.10	電気学会委員会では、通常の活動に加えて、県内で研究会を1件開催した。日本磁気学会の編集委員では主査として特集を企画(解説1件・トピック4件)した。	
管理運営	0.30	学科では予算委員会、JABEE委員会に属し管理運営にあたる。予算委員会では委員長として円滑な委員会運営に尽力する。JABEE委員として教育改善に帰する活動を行う。工学部では、予算委員会委員としての任にあたるとともに、工学部教授会をはじめ各種会議に出席し各組織の運営に携わる。		0.30	予算委員長として予算案の作成と円滑な運営に尽力した。JABEE委員会では授業評価アンケートを担当し集計と公開により学科のFD活動に寄与できた。教授会、工学部予算委員会をはじめ学部の運営に協力できた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 学外公表に同意しない。 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浦崎 直光	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器設計工学では、前年度の授業評価アンケートの意見を考慮し、授業内容の改善を行う。 大学院科目(電気機器工学特論)では、英語による授業を継続する。 研究室配属の学生に対しては、定期的に進路指導を行う。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 電気機器設計製図では、演習を増やし学生の理解を深めるよう努めた。また、最終レポートの参考資料が分かりにくいとの指摘があったため、今年度は資料を改定した。 今年度は、11名の受講者中6名の留学生が受講しており、英語中心とした講義を実施した。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも1件の研究成果発表(学会発表、論文投稿)を行う。 科研費以外の外部資金として総務省「戦略的情報通信研究開発推進事業」に応募する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 学術雑誌に1件の研究成果を投稿した。 総務省「戦略的情報通信研究開発推進事業」に応募し、採択された。 	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 産官学関連の行事に積極的に参加する。 技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。 電気学会ならびに電子情報通信学会の九州支部委員として学会活動をサポートする。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 電子情報通信学会九州支部の学生会顧問の幹事を務めた。 	
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 将来計画委員として学部改組に取り組む。 社会連携委員として、工学部後援会と学科の橋渡しを行う。 電気主任技術者事務担当として、在学生ならびに卒業生の資格取得のサポートを行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学部改組のための申請資料作成のサポートを行った。 工学部後援会の事務局を担当し、総会や就職説明会等の各種事業を行った。 電気主任技術者ならびに電気工事士に係る単位認定審査を行った。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		